

ここに「消化管内視鏡治療のリスク克服に向けて」と題した特集をお届けする。内視鏡治療は、大きく待機的(予定された)内視鏡と緊急内視鏡に、また通常(普及した)内視鏡と先進内視鏡に分けることができ、一般的にいずれも後者のほうが治療に伴う偶発症リスクが高い。今回の特集では、治療内視鏡を待機的、緊急、先進という3つのカテゴリーに分け、治療内視鏡に潜むリスクとその対処法について、その道の専門家にわかりやすく解説していただいた。企画者の意図を汲んで素晴らしい論文を執筆下さった先生方にこの場を借りて、心より感謝、御礼申し上げます。

日本消化器内視鏡学会では、消化器内視鏡に関連した偶発症を1983年から5年ごとに、計6回にわたり後ろ向きに全国調査してきた。第6回調査(2008~2012年)によると、治療内視鏡に伴う偶発症率は0.68%(10,387/1,534,202)であり、検査内視鏡の約50倍であることが報告されている(Gastroenterol Endosc 2016; 58: 1466-1491)。

Japan Endoscopy Database(JED)プロジェクトは、全国規模で前向き全数症例登録を目指して2015年より開始された日本消化器内視鏡学会の一大プロジェクトであり、2022年9月末現在、全国1,508施設から7,147,762件の内視鏡データが蓄積され、2022年3月にはJEDデータを用いた年度ごとの内視鏡診療動向がJED白書として公表されている。2020年のJED白書によると、上部消化管内視鏡全体、小腸内視鏡全体、大腸内視鏡全体における手技中偶発症率は0.49%(2,897/597,707)、0.76%(9/1,180)、0.46%(1,286/279,486)、大腸内視鏡治療・非治療の手技中偶発症率は1.03%(807/7,797)・0.24%(479/201,509)であり、先に述べた第6回調査結果との乖離から自明のように、より正確なデータ把握には前向き集積が如何に重要であるかがわかる。

本特集を通読いただいたことがきっかけとなり、先生方の内視鏡診療の質と安全性が向上し、近い将来、JED白書において偶発症率の改善を目にすることができるのであれば、企画した者として望外の喜びである。

(藤城 光弘)

臨牀 消化器内科® Vol. 38 No. 1

©2022年12月20日発行

定価 3,300円
(本体3,000円+税10%)

- ・2023年 年間購読料(増刊号含む13冊,税込)
冊子版 43,450円
電子版(個人のみ)43,450円
冊子版+電子版(個人のみ)48,950円
(詳しくはホームページをご覧ください)
- ・年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社までお申し込みください。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail gastro@nmckk.co.jp

ホームページ <https://www.nmckk.jp>

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 三報社印刷株式会社

・Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2022, Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版者>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所/日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 03-5226-2791